

キバチ類によるスギ造林木の被害について

青森県林業試験場 研究管理員 今 純一

1 はじめに

西日本を中心にスギやヒノキの造林木にキバチ類による被害が発生して問題になっており、北日本では秋田県や北海道の道南地方で被害が確認されている。しかし、県内における実態については不明であった。

被害が他の穿孔性害虫と混同して扱われている可能性があることから、県林試では平成11年度から、実態解明のためにキバチ類の発生・生態及び被害分布等の調査を行っており、現在までの結果と他県の研究成果から、防除対策について一考察を加えた。

2 調査方法

(1) 発生・生態調査

東津軽郡平内町小湊、県林業試験場実験林内のスギ30年生林分に、キバチ用の誘引トラップ（誘引剤はホドロン）を設置し、平成11・12年の6～9月に成虫の捕獲調査を行った。

(2) 被害分布調査

間伐後の切り株木口の被害痕を調査し、被害と地況、林況、施業歴等との関係について検討した。

(3) 間伐試験

県林業試験場実験林内のスギ30年生林分に間伐木を林内に放置した区画（平成11年5月伐採、伐採率7%）を設け、間伐しなかった同一林内の20～30m離れた区画を対照区として、平成11・12年の6～9月に成虫の捕獲調査を行い、間伐木放置の影響について検討した。

3 調査結果

(1) 発生・生態調査

ニホンキバチ、ヒゲジロキバチ、オナガキバチ、ヒラタクビナガキバチ、ズアカクビナガキバチの成虫を捕獲できた。この内、Amylostereum 菌を媒介して材内に変色を発生させる重要種はニホンキバチとヒゲジロキバチで捕獲頭数も多かった。

ニホンキバチは平成11年は8月中旬から9月上旬まで、平成12年は8月上旬から9月中旬まで成虫を捕獲でき、最も捕獲頭数の多い時期は8月下旬であった。ヒゲジロキバチは平成11年は6月下旬から8月中旬まで、平成12年は7月上旬から8月上旬まで成虫を捕獲でき、最も捕獲頭数の多い時期は7月中旬であった。

(2) 被害分布調査

平内町、十和田湖町、七戸町、十和田市の20～40年生程度のスギ林分で調査を行った。

平内町、十和田湖町、七戸町では被害は少なかったが、十和田市の数箇所では本数被

害率40%程度を示す被害林分がみられた。また、調査林分の施業歴から本数被害率を比較した結果、図-1に示すように、いずれの調査地でも間伐木を林内に放置してきた林分で間伐木を林外に搬出してきた林分よりも本数被害率が高い傾向がみられた。

(3) 間伐試験

図-2に示すように、11年度の捕獲調査では、間伐木を放置した区画でヒゲジロキバチ、ニホンキバチとも多く捕獲でき、対照区の捕獲頭数はヒゲジロはその3割、ニホンキバチは1頭のみであった。12年度の捕獲調査でも間伐木を放置した区画でヒゲジロキバチやニホンキバチを多く捕獲できたが、対照区でもヒゲジロキバチ、ニホンキバチともその5割程度捕獲でき、11年度よりも捕獲頭数に差はなかった。

このことから、間伐木にキバチ類が誘引されたことが考えられた。

4 被害防除についての考察

- (1) 間伐木で繁殖し被害発生源になることから1)、間伐木は林外搬出が望ましい。
- (2) 新鮮な伐採木に集中産卵するということから1)、間伐時期を考慮しないとならない。成虫の発生直前～発生時期(4～9月)の間伐は避ける必要があり、秋期の間伐(10～12月)が望ましい。また、積雪期の間伐木は材が乾きにくいことから、秋期の間伐木よりも繁殖源になりやすいことが考えられる。
- (3) 高切りした切り株は繁殖源になると思われることから、伐採位置はできるだけ低くする。
- (4) 同地域で伐採を繰り返し、間伐木を放置すると被害が急増する恐れがあることから、施業区域を区切って計画的に間伐を行うことが望ましい。
- (5) 玉切りすることで繁殖を抑制できるということから2)3)、間伐木は全木放置せず、1～2m程度に玉切る。また、間伐木は林縁部に出し、早期に乾燥させることが望ましい。
- (6) 被圧衰弱木に被害が多いということから4)、被圧木を発生させないように適正な間伐を繰り返し、林分を仕立て上げて行くことが望ましい。

5 おわりに

キバチ類による被害は変色のみで、生立木の材に幼虫の食痕は殆んど見られず、腐朽も発生していない。このことから、スギノアカネトラカミキリやスギカミキリの被害よりも材への影響は少ないものと思われる。しかし、被害は県内に広範囲に分布している可能性があり、放置林分の増加や間伐の手法によっては被害が増大する危険性がある。

調査はまだ継続中であるが、今後は他地域の被害についても明らかにし、さらに効果的な防除技術を早急に確立する必要がある。

引用文献

- 1) 佐野 明：ニホンキバチ. 林業と薬剤 122, 17～24, 1992
- 2) 稲田哲司・井上功盟：間伐放置木の玉切りによるニホンキバチ成虫発生量の抑制効果. 第110回日林学術講, 59, 1999
- 3) 稲田哲司：間伐放置時期ならびに玉切りによるニホンキバチ成虫脱出個体数の抑

- 4) 細田浩司・横堀 誠: キバチ類の被害率と環境要因及び防除の可能性. 第 110 回日林学術講, 70~71, 1999

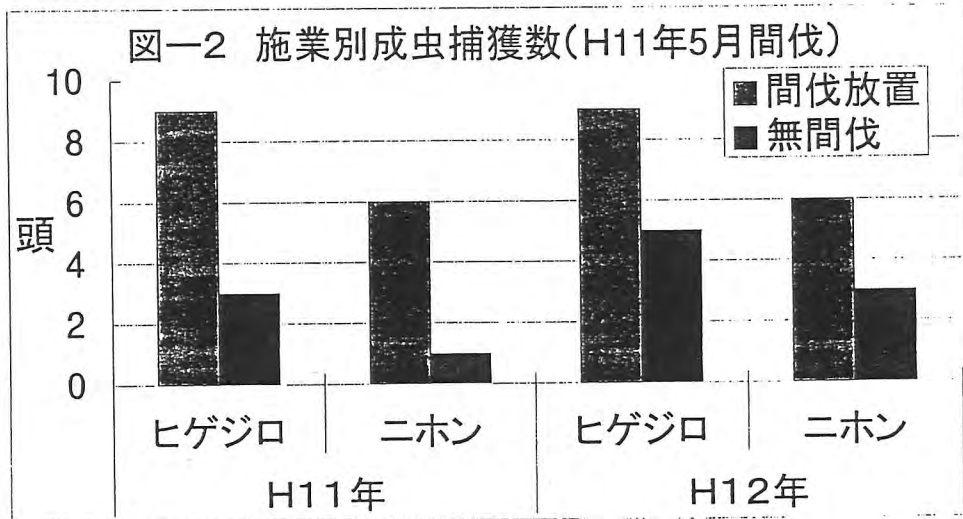
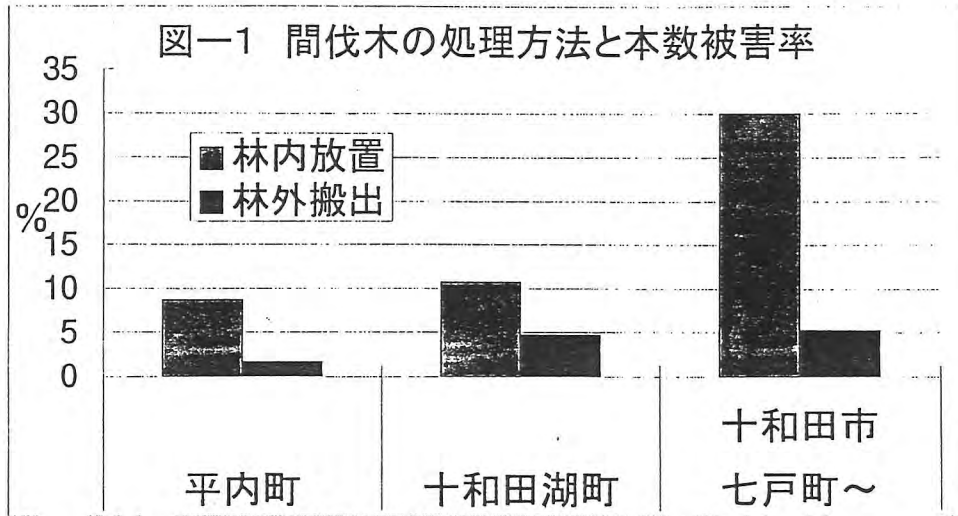
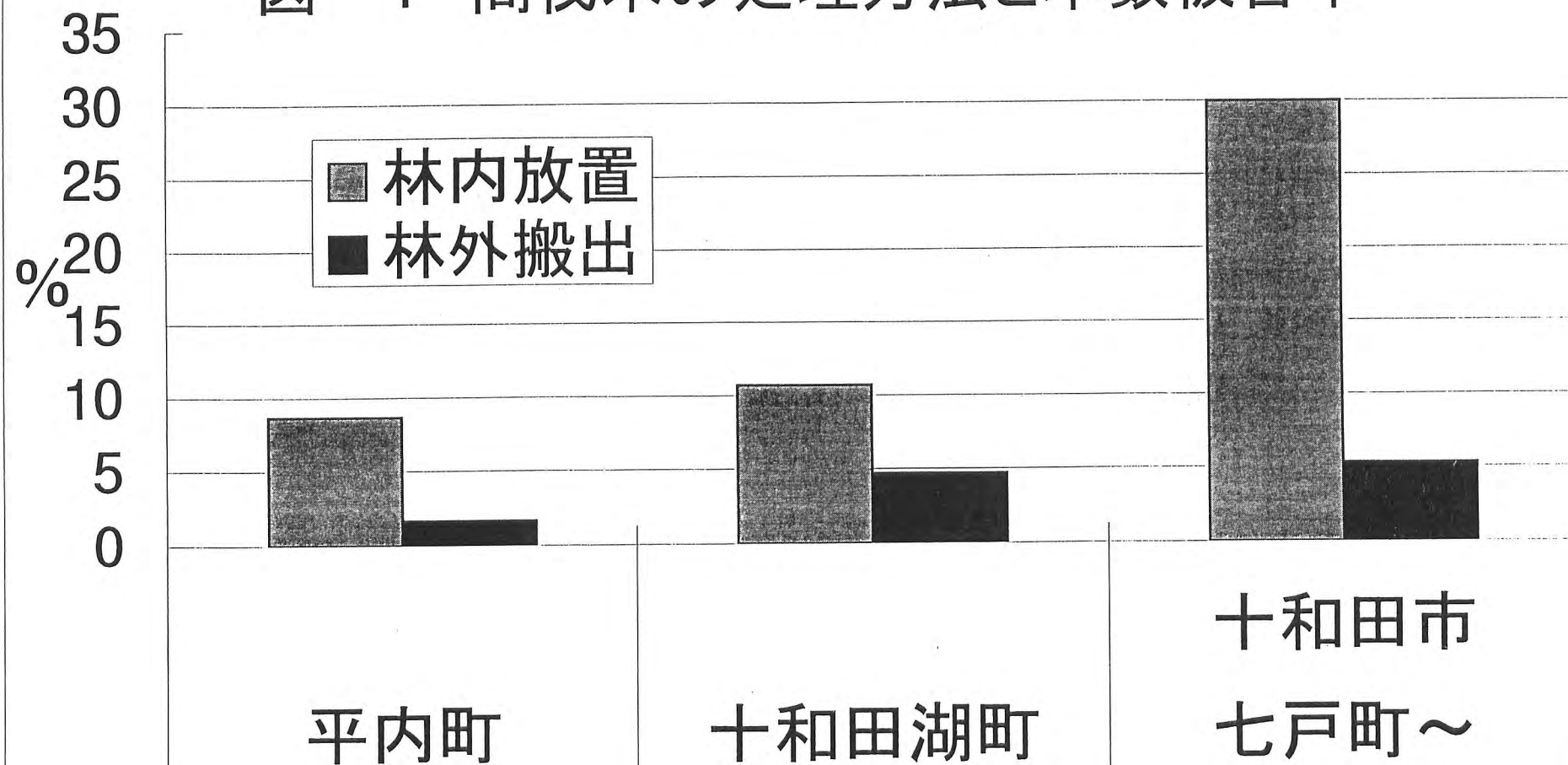


写真-1 木口面の被害

図一1 間伐木の処理方法と本数被害率



図一2 施業別成虫捕獲数(H11年5月間伐)

